

東光寺たより46

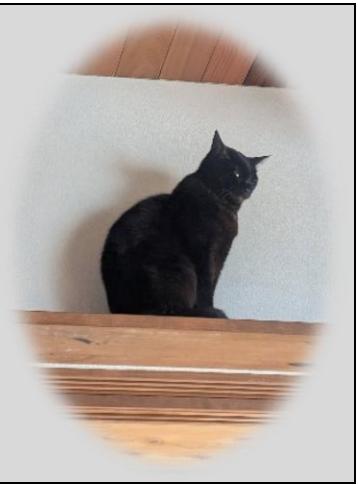
空手（くうしゅ）何も持たない

先日のお葬式で、故人は石に関する資格をお持ちの方でした。棺の中にその資格の看板を入れて持っていかれるようありました。人は黄泉の道へと旅立つときは肩書や名誉等は全てそぎ落としてゆかれる。言わば“何も持たない”状態であります。唯一持つていける肩書としたら何であろう？と、ふと思うところが有りました。



にやお君ねこ こんにちは

早いもので3回忌に法事を勤める事となった当家はにやお君がぎょーさんでした。北海道からお参りにござった親族が、自身の身体は天からの借り物。いずれは天に返さねばなりません。その時まで大事に自身の身体を使わなくてはいけませんねと述懐されていたのが印象的でした。引き物で持受したスコーンを見ながら思い出した住職でした。



大般若へと赴く♪

近所のお寺へと大般若へ赴く住職。お手間入の御斎をいただきました。全て手作りの心の籠った料理の数々を難なく頂戴した住職でした。法會も新年最初を飾るに相応しい力強い一刻になりました。



新住職誕生します♪

近所のお寺さんでは住職が交代されるという事で当山の住職の認めが要ると連絡を受けました。その為にご挨拶にこられた近所のお寺の新命さん。何を隠そう当山の礎を築いて下さった数百年前の和尚さんも今度住職交代をされるお寺さんの出でもあり言わば親戚の間柄でございます。桜が咲く頃には住職交代が完遂しているであります。差し当たって、吉報を先代の祖師に報告したのであります。



今季最凶の寒波

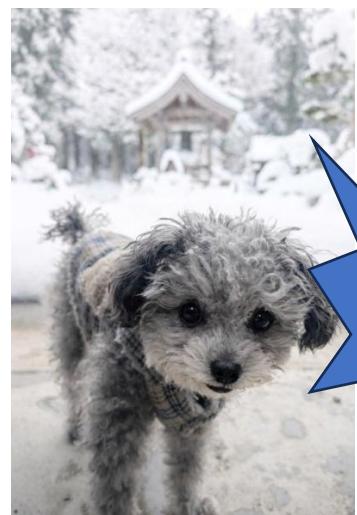
1月末、寒波に襲われた当山は雪一色になりました。陸の孤島とはまさにこの事を指します。そうちやんもたじたじです。そんな中ですが、ブルが雪をどかしに来てくれました。まさに天祐。難有い限りです。そつと手を合わせる住職でした。



49日忌の法要にて

住職と同年代の故人はもうこれから先の風景を見る事が叶わず、おそらく無念であったろうにと偲ばれます。亡くなるまでの時間はとても寂しい思いをされたのではなかろうか？そんな思いを和ませようと、看板犬のそうちやんは明るく振舞ってくれます。何故か？いつもより良いお顔です。きっと故人が寂しくないよう振舞ってくれたんだろうと思います。故人の気持ちを敏感に察知する賢いワンちゃんだと住職は、この時思いました。

そして銀世界へと



文責
東光寺
英隆